

最初は自分の名前「た」を書く事が主な書き方でした。

支援員たちの心を鷲掴みにした。

これから まるで息子の日記みたいと気が付きました。

お絵はきは「ハッピー・エント」で終わり、そのことを大切にしている。

たくさんありますが、手と脚のラインが、全部好きです。

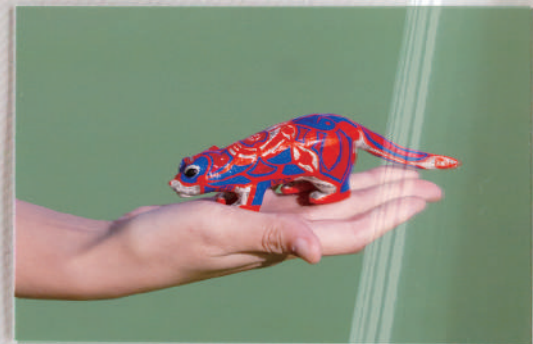
「はい」とは言うが描くことはない。

「自分で病気をつくらんじゃ」

らくがき・テトーな絵

お絵は「障害でし」「んんん絵」と、この絵は、お絵に見ても、お絵は

上記で説明したようなルールで描かれないことがある。



もの語りガイドブック

令和4年度
新潟オール・ブリュット公募展

アール・ブリュット — ものと語り

令和4年度新潟県障害者芸術文化活動普及支援事業として、新潟アール・ブリュット公募展「ものと語り」を開催いたします。今回の公募展では新潟県の上中下越地域から65組の応募が集まりました。その中から多分野の専門家6名によって選ばれた、15組の「ものと語り」を展示します。この冊子では、「もの」がうまれる背景が記載された応募用紙の文章と訪問調査の会話を「語り」としてご紹介します。

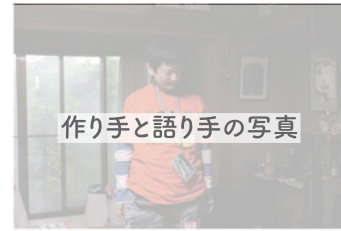
アール・ブリュットとは広義に、文化的な伝統や流行、教育などにとらわれずに、独自の発想と方法により制作した作品のことを言います。鑑賞されることを目的としていないそれらの作品は、多くの場合、作者ではなく周りの人によって見出され、紹介されてきました。そこには「もの」に対する創造的な観点で「語り」も生まれています。

「新しい言語を作り出すこと、それはまさに芸術家の創意のありかです。」アール・ブリュットを提唱した画家ジャン＝デュビュッフェは、表現する動機をそのように言いました。「言語」という観点に立ったとき、「作品」は誰との間で使われ、どのようなやりとりを生み出しているのでしょうか。一人の作家が作った美しいもの、というイメージにとらわれず、日々の生活の中に既にある「ものと語り」を紹介してもらえませんか。

(作品募集チラシ呼びかけ文より)

ガイドブックの読み方

訪問調査にまつわる情報



作り手と語り手の写真



訪問調査の際にお聞きした表現にまつわる話を一部抜粋(聞き手:角地智史)

応募用紙にまつわる情報



作品の写真



※令和元年度「上越アール・ブリュット公募展」ガイドブックより

応募用紙に語り手が書いた作品PRや「もの」にまつわるエピソードなど

目次

手塚 里美+佐藤 貴彦	----	4-5	七桃団仔	----	22-23
土田 学+佐藤 汐織	----	6-7	耀 アカル+虎谷 多真	----	24-25
小野塚 秋雄+本間 洋子	----	8-9	西須 奈津子+石塚 紀子	----	26-27
小村 孝子+濁川 将司	----	10-11	拓也+郁恵	----	28-29
大塚 智史+岩崎 亜矢子	----	12-13	馬場 悠斗+馬場 友絵	----	30-31
HI+工藤 由貴子	----	14-15	佐藤 葉月+平山 麻衣	----	32-33
松澤 龍成+金澤 薫	----	16-17	作品の読みかた、それぞれの観点とは?	----	34-37
土田 真央+早川 小雪	----	18-19	展覧会概要	----	38
吉原 悠真	----	20-21			



絵巻物で描かれているモチーフってなんですか？

- 作り手はペンを取り出し筆談を行う！
- 作り手 (左 オオサンショウウオ 右 カメ)
- 聞き手 この丸のイメージには意味があるんですか？
- 作り手 (血液)
- 聞き手 血液なんです、じゃあこの赤い格子は脈みたいなことですか？
- 作り手 (とりい)
- 聞き手 え、鳥居なんですか？神社の入り口ってことなんですか？
- 作り手 (おいなり)
- 聞き手 稲荷神社、確かに鳥居がダットと並んでたりしますよね。
- 作り手 神社や神様に関心があるんですか？
- 聞き手 (昔に、見たことあるから)
- 作り手 スピリチュアルな側面がある方なので。好きだったり、求めてたり。
- 聞き手 そうですか。それはどんな姿だったんですか？
- 作り手 (人だったり、動物だったり。)
- 聞き手 このカエルとかへビも神様の化身だったりするんですか？
- 作り手 (頷き)
- 聞き手 どこまで言っているの？全部？
- 作り手 (両手を少し広げる)
- 施設職員 彼女はもともと家庭環境が結構複雑で、身近な人が亡くなるという経験もされているんですね。あの時は驚いたよね。
- 施設職員 夜中に電話くれたよね。作品を作る中で追悼のような思いもあるのかなと。あえて言葉にはしないだろうけど。

作品題名	ふりがな し か え ま き も の ロール紙に描いた絵巻物		
作り手	ふりがな て づ か さ と み 手塚 里美	1992年生まれ	所属 特定非営利活動法人 障がい者生活 ステーション さんろーど
語り手	ふりがな さ と う た か ひ こ 佐藤 貴彦	施設職員	
		作り手との関係	

物作りはコミュニケーション

幼い頃から人との繋がりは“ものづくり”でした。言葉でのコミュニケーションは苦手でも、作り出された作品は学校の先生や同級生・大人たち等常に外に向けられていたように感じます。粘土や折り紙、水彩画等様々な物を作り、その時々で作品は様変わります。作品に夢中になると生活リズムが乱れることもあります。出勤前に自宅を訪れると完成した作品をおもむろに差し出し、製作の苦労話や次の作品について、今日のファッションについて等話がはずみます。描く事が生活の中心にあり、得意な事で周囲の人と繋がる力がある里美さんです。今回発表する作品は“ロール紙に描いた絵巻物”です。自身がインターネットで注文した約2.5メートルの紙の両面に色をぬり、思い浮かんだイメージを描きます。次にどんな作品を描くかは決まっておらず、その時の気分だそうです。完成した作品には執着せずすぐに次の作品へと取り掛かります。



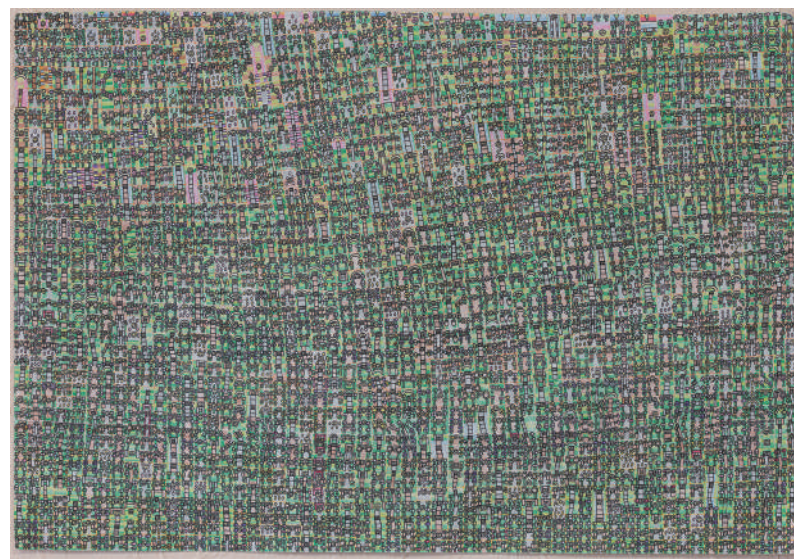
支援員

明るい表現が多いのは驚きでした。
 これまで内面を表現するのに苦戦して、
 それが体調の悪化につながったり、
 過敏になって他者とか音とかが気になって
 ふさぎこんでしまったり…
 みたいな時期を見ていたので。
 ひとつの吐き出し方というか…
 そういうものが見つかったんじゃないかって。

作り手

なんか、色を間違えたりとか。
 そういうのがあつたら絵が
 暗くなってしまうので失敗。
 間違えたら、スケッチブックの紙を新しくする。
 失敗したのは捨てないけど、新しく描き直す。
 いいなと思うまでやる。
 絵自体が暗いのが好きじゃない。
 絵自体が明るい方が好き。

創作において「失敗」はありますか？



作品題名	ふりがな みちの ちち いちいち ふたいち 緑がいのほの道につながる色々な風景 そしてスマイル		
作り手	ふりがな つちだ まなぶ 土田 学 1988 年生まれ		所属 社会福祉法人 とよさか福祉会 クローバー 歩みの家
語り手	ふりがな さとう しほり 佐藤 汐織	支援員 作り手との関係	

「僕」は、今まで「絵」に興味なかったけど、前に北区で開催された
 児童福祉の展示を見て、自分にも「できる」「描いてみたい」と思ふようになりました。
 今回出品した絵は、自分が書いた中で、見つけることかできる花、車しかで通って見つける花を合体させて絵にしました。
 ちがって今更工したところは、1つの1つのマスの中に描かれている花と道に「スマイル」が描いてあるところを、それはきれい
 かなあーと思ふように修正しました。絵を書いたときの気持ち、今日の絵は、できるな、けいこくならずして、それ
 いちいち使って見ると、描きまじい、自分なつたこの絵の中の風景道を描いてみたいなあーと思ふ、だから、描いたの
 かこの絵の、絵を書きまじい



どんなお題で描いているのですか？

施設職員

絵が飾られる場によってお題が変わるんです。

例えば、地域の歯医者さんやモスバーガーさんから毎月依頼を受けている絵だと、季節の植物だったり、食べ物だったりが多いです。

私たちの施設としても干支の絵をお題にして使わせてもらったり。

それから、職員の有志で集っている

〇〇ousu! (オーッスー)の会と云うのがありますが、その会では、毎年テーマを設けて展示を企画していて、

絵だけではなくて、行動なんかも取り上げたりしています。今年のテーマは「私の推しの発表」です。

その企画に向けて、

小野塚さんに日本の名画シリーズを題材に

描いてもらっています。

作品題名	ふりがな まる ぼう	丸と棒		所属 社会福祉法人 ロングラン
作り手	ふりがな おのづか あきお	小野塚 秋雄	1949年生まれ	
語り手	ふりがな ほんま ひろこ	本間 洋子	施設職員 作り手との関係	

彼の描く絵には、『円』と『線』という特徴がある。絵を描く際、支援員がお題を出し、その絵を描いていただく事が多いが(言葉のみの提供ではイメージがわからないようで描き出せないためである)支援員からのお題を彼は「円」と「線」を使って表現をすることが多い。円を利用して動物を描いた時には、支援員たちの心を驚かすようにした。色の塗り方にも独自性があり見る側の心を揺さぶる。小刻みにクーピーを動かしながら色を塗り、その筆の動きがそのまま残っている。そんな細かなクーピーの線の動きは、文字など間違えた時にそのまちがいを隠そうと塗りつぶして変身させるミノムシ文字のようかわいらしいのだ。配色も、面白い。色の切り替わる場所が、そこから!?と思わぬ箇所から色が変わるため、作品を端から端までよく見てしまうのである。まれに、上記で説明したようなルールで描かれないこともある。その違いを未だ把握することが出来ていない。しかし、それもまた、私たち支援員を楽しませてくれているところである。



絵を取っておくようになったきっかけを
教えてください

施設職員

以前アール・ブリュット展を見て、一枚だけというよりは数で圧倒されることが多くて、毎日続けて描いている数字のノートを見たこともあったし、日々の習慣が形になってるんだなと思ったんですね。その印象が残っていたので、なるべくこちらで溜めていこうと思ったんです。本人は終わったと感じてくしゃくしゃにして捨ててしまうこともあるので、今は描いた紙は事務所に持って来てくれるのですが、その時にきれいだね、すごいねとか職員から声をかけています。そういうときは、気にしないで去っていくときもあるし、うん、とうなずいて良い表情をしているときもありますね。本人からの言葉は、おかか（お母さん）、猫、ごはん、おわり、うん、などの短い単語なので、身振り手振りや表情を重ねて、意味を受け取っています。



作品題名	ふりがな 「た」		
作り手	ふりがな こむら たかこ 小村 孝子 1960年生まれ	所属 社会福祉法人 中越福祉会 みのわの里更生園	施設職員
語り手	ふりがな にごりかわ まさし 濁川 将司		

最初は自分の名前「た」を書く事が主な書き方でした。習字やぬりえ、活動に参加しても紙の真ん中に自分の名前を書いて満足してしまい、色を重ねる事はありませんでした。プレゼントで色鉛筆をもらってから、その時の気分で描く「た」の色味が変わり、紙の真ん中に「た」と書くだけでは紙がもったいないので、沢山「た」を描くように本人に依頼したのがきっかけでした。最初は「た」を紙のいろんな場所に描くようになり、重ねて色が変わっていったものが、今では「た」を描く事はなく、紙一杯にいろんな色を重ねて塗ります。毎日、「沢山描いた」と言いたげな満足した表情で事務室に作品を持って来られます。そして新しい紙を受け取ると、次の作品を描く為、ニコニコしながら真っ直ぐ寮内に戻っていきます。作品と白紙の紙を交換するときのニコニコした表情や沢山描いてきた事を自慢する表情豊かなやり取りが日課になりつつあります。



張り子を作るきっかけを教えてください

支援員

実は張り子の作業を取り入れたのは、福祉的な意義も関係しています。

今年（令和四年）の春は職員の配置換えも関係してか、智史さんの落ち着かない行動が目立っていました。

ワークシステムという手法があるのですが、仕切りのある机を導入したり、作業内容をより細かく組んでみることを試したんですね。

以前は絵を描いていたのですが、すぐに描き終えてしまうので張り子を作ってみよう。張り子は作業工程が多いので、新聞をまず一緒に切るってところから始めて

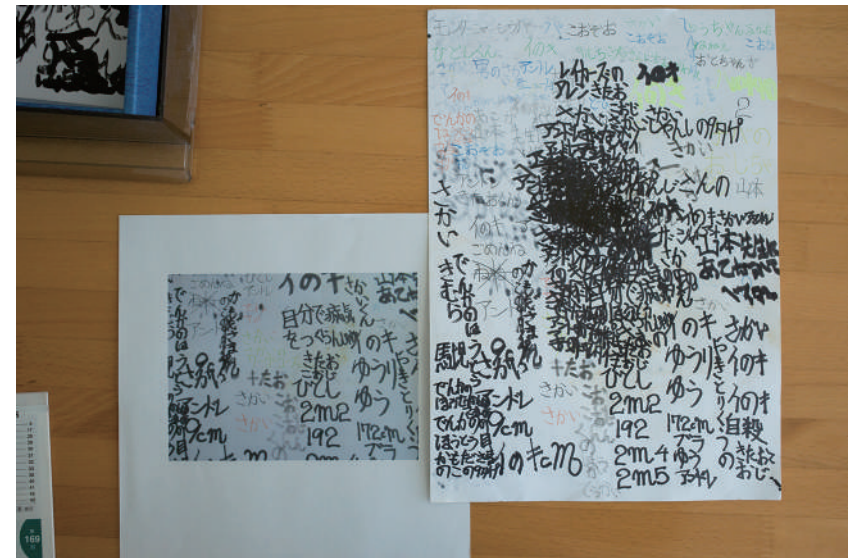
風船を膨らましたところに水糊を刷毛につけて塗っていくっていう。

「少しずつ、繰り返し、繰り返し一緒に、やってみると智史さんとしては、

刷毛で塗る感触が楽しかったみたいで上手くはまって、段々と一人で作業に取り組めるようになっていきました。

作品題名	ふりがな [まぐのかお]		
作り手	ふりがな おおつお さとし 大塚 智史 1994年生まれ	所属 社会福祉法人 南魚沼福祉会 まきはたの里 まかろに	支援者 作手との関係
語り手	ふりがな いわさき みやこ 岩崎 亜矢子		

智史さんのマイキャラクター通称「さとくん」大抵円い、ギザギザのヘアスタイル。長のお毛は：ぶくり（おへ）…今年から始まりました「工房さし」の初作品張り子で制作は：佐藤さとくん。お毛を「おまわり」にハケに含ませ、のせていく。風船の曲面に：障子紙をかきこむ：整列する。毎週金曜日、智史さんのワークスペースはアトリエに変わる。張り子で表現された「さとくん」1枚、1枚、正方形に：型どらねに：障子紙をかきこむ：曲面に：横一列、きれいに並ぶ…。カット、塗って、見ると…総ての「工房さし」の風景。



どんな言葉が書かれていますか？

―作り手への面会ができなかった為、病院職員に質問を預ける―

病院職員

Hーさんへの質問事項を承りました。

この日はHーさんの調子が良く、答えて頂けました。
ビックリ！

紙に書いている文字について、左記のような答えでした。

さかいさん：同級生の男の人。

9タイプ：身長の高くなること。

お父さんのこと：やさしいお父さんでした。最近死にました。
好きなプロレスなど：イのキ、アンドレザジャイアント
でんかのほうとう：体の大きい人のこと。

終始嬉しそうに答えて下さいました。

私からも、字が上手ですと伝えると、

「いや〜まだまだ勉強です〜」と

右手を挙げながら答えて下さいました。

以上、ご報告でした。

作品題名	ふりがな ぼく どう 僕と父さんのレクイエム		
作り手	ふりがな H I 1967年生まれ		所属 独立行政法人 国立病院機構 さいがた医療 センター
語り手	ふりがな くだう ゆきこ 工藤 由貴子	病院職員 作り手との関係	

精神病という病により、彼の発する言葉は限局しあまり聞かれなくなっていった。
しかし、作業療法室から出るとの、しっかりとした挨拶は、
彼の両親が彼に対して行った嫉でもあり、精神病という大きなものからも打ち消されずに残った、
彼に対して両親からの愛情の様なものを感じずにはいられない。
そんな彼の作品は、一見ただの殴り書きの様に見えるが、よく見るとメッセージ性があり、
「自分で病気をつくらんじゃ」「さかい君にあいたい」「お父さんにあこがれて」
「お父さんになりたい」「アンドレ・イのキ」等、
彼の思いが活字となり、思いが強ければ強いほど上に上に重なりあって表現されている。
それが天国にいる父と母に想いが届くかのように。



作っている動機をどのように思われますか

先生 A うーんどうしてだろう。

作っているとそれだけで落ち着くというのはあるんじゃないかと。

宿泊体験とか、ちょっと落ち着かないときに作っていたり。

母 自分の中の満足感かな。だれかに見てほしいとか、

飾ってほしいとかそういうアピールとか提案はなくて、

作って自分で満足しておしまいたいな。

結局自分で壊すときもあるくらいで。

先生 B 5, 6年生の時は作品を持ち帰りたいと言っていることも

ありましたよ。並べるのも好きでテープなどを使って

上手にきれいに並べたり。絵をハサミで切る時に、

面倒くさくなったのか私に切ってくれと

言ってきたこともありました。結構厳しくて、

線からはみ出しているとダメなんですよね。

先生 A あ、それは今も時々頼まれることがありますね。

作品題名	ふりがな 無題		所属	糸魚川市立 ひすいの里 総合学校
	むだい			
作り手	ふりがな 松澤 龍成		2009年生まれ	学校教員
	まつ りゅうせい			
語り手	ふりがな 金澤 薫		作り手との関係	
	かね ぐん			

龍成さんは、自分の好きなキャラクターを何度も描き、描いているうちに自分の中で形が変化していききました。時々上を見ながら頭の中に思い浮かぶキャラクターをイメージしている時があります。指先から湧き上がってくるものを目の前の素材に表現しています。今後どんな風に変化して新しい表現が生まれるか楽しみです。表現活動は彼にとって特別なことではありません。湧き上がるイメージをたんと目の前の素材に写し出しています。宿泊体験や登校中の車の中でも絵を描いたり、粘土をこねたりするほどものづくりが日常の一部になっています。領収書、診療明細書の裏などどんな素材にも思いのまま描きます。領収書の裏に写ったものの線を見て同じ色を再現したり複写を楽しんだりして、彼の中で表現が広がっています。



手紙をくれるようになったきっかけがありましたか？

支援員

まおさんは対人関係や環境にちょっと過敏なところがあって、まだ施設に通い始めたばかりのころ、バッグを利用者の仲間に投げたことがあったんですね。

私が急いでまおさんの方へ行って、力づくともでは言わないけど、なに！とぐつと手を押さえたとき、まおさんが私の頬を叩いたんです。

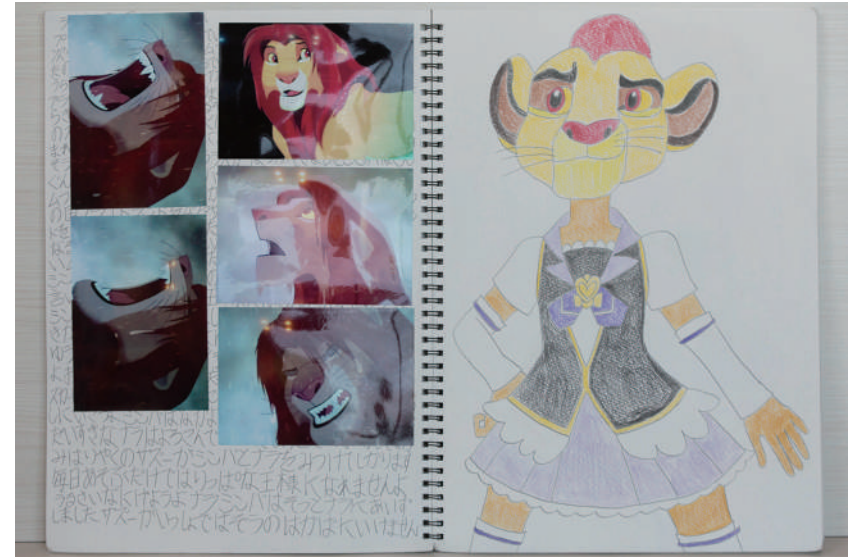
まわりの人たちは驚いていたけど、私は以前勤めていた施設ではそんなことよくあることだったから全然平気で、「まおさん大丈夫だから、ほら。そんなことしないで」と

バッグを置かせて作業の準備に向かわせました。

特に注意をしたわけでもなく、そこで終わり、という感じで接して、そうしたらたぶん、

「怒られたけどなんとなくわかってくれて受け入れてもらえた」と感じてくれたのかな。

それ以降は徐々に関係性が築けて、手紙をくれたり声かけに答えてくれたりしています。



作品題名	ふりがな ^{あ、たい} 無題		
作り手	ふりがな ^{つちだ まゆ} 土田 真央	2001 年生まれ	所属 特定非営利活動法人 アビリティィ燕 トムの家
語り手	ふりがな ^{はやし あり} 早川 あり	支援員	
		作り手との関係	

音楽を聴きながら、キャラクターの絵を描いたり、物語を書いたりが好きです。
顔はアイコンタクト、姿は別なキャラクターの装いで描いて……出品が難しい物語
はさ人あいますか、手と脚のラインが私は好きです。
作業所に通い始めて3年目になりました。特別支援学校時代のほうが登校しやすい
ことが多かったのですが、今は休みの通所してやるのを嫌しく思っています。
一人が好き、自分の世界に没頭してやるのが好き、周りのことと気がついていない真央さん。
この春から又一人、過激なことが多すぎて、しんどいけれど、友達に助けられていっています。
安心して絵や文章を書いて、自分で表現し、受け入れてもらえるように思っています。



表情にこだわって描いていますか？

作り手

はい。
基本笑うんだったら前向きに。
クレヨンしんちゃん好きなんですけど、
しんちゃんと違って横向きで笑ったりしないで。
気持ち前向きにした方がいいって。
今日も一日笑顔でがんばってという意味も
ありますし、笑顔で行こうみたいな。
自分のことでもあるし、皆を笑顔にしたいってのも。
いっかまー。って、巻の方言で、
こらー！何してんだ！みたいな。
あ、るるちゃん「いっかまー」なんて意味
知らないで使ってるかな。



作品題名	ふりがな え らくがき・テキーな絵		
作り手 語り手	ふりがな よしほら ゆま 吉原 悠真 1997年生まれ	関係施設	社会福祉法人まき福祉会 地域活動支援センター ピース

この絵は誰かに見てもらいたい。どうせ「障害者だし」「へんな絵」と
いかにせよみしめてもらえなかった。それでも私は絵会、イラストを描き
続けた。ポンクが好きな私、Xインキャラクターのかみの毛をポンク
色に仕あげてかわいくかいた。
自分の気持ちを文章であらわせない。どうやって書いて
いいかわからない。なので私は絵会をかくことが好きのため、
X毛用紙にテキーにかいておもしろおかしくときには思いつき
で描くこともある。私にとって今、描いている女の子のキャラ
「るるちゃん」は自分であり、ひんらんまんな性格であり
かまちゃんな儀ージのキャラである。



作品題名	自らの権利は自らが守る。 <small>ふりがな みずか けんり みずか まも</small>		
作り手 語り手	七桃団仔 <small>ふりがな テットギンナ</small>	1990年生まれ	関係施設 合同会社マザーアース マザーアース新発田

これは全て意図して作製した物ではなく、
自分の権利を他者から保護する為作ったもの、怒りから生まれた
もの、悲しみから生まれたもの等、人生を送る過程で偶然生まれた
作品です。
もはや私の憤りは頂点に達して居り、語って居る場合では
無い。貴様等健常者は障害者を不当に扱い、障ありは嘲笑
して来る。行政に於ても然り、公権力は私に狼籍を働き、
人権をも侵害して、私は相互主義の観点から、時に暴力も辞さず
此れ等悪徒と戦う所存である。

展覧会に期待することを教えてください

作り手

応募した時は、なんだろうな、
健常者の人にアピールしたいのもあったけど、
今となっては…障害者の人に、
なんか考えるきっかけになってほしいなと思いますね。
不当に扱われた時、黙ってないで、
死んでもいいから行動を起こさなきゃだめだと思う。
怖いから、面倒くさいから、黙ってるというのは
どうしてもおかしいと思うんですよ。
いつか死ぬし、障害のせいで苦しむ一生を送っていたら、
言葉は悪いけどあほじゃないかと。
例えばけんかだね、僕弱いですけど、勝てないんだったら
道具をつかうのは当たり前のことですし、
僕は社会では一人じゃ無力ですけど、
武器としてこういう施設に通っている。
マザーアースも、職員の静さんも、僕にとっては武器です、
これと変わらない。
徹底的に戦うのは、あらゆるものを利用して、
死ぬ気でやらないとだめだと思う。



展覧会に期待することを教えてください

作り手

作品出した展覧会が行ったことはないが、色々な展覧会に出展する事が出来る様に、もっと技術をみがいて納得のいく作品を作って皆に見てもらいたい。

聞き手

自宅で飾っている作品はありますか？

作り手

特にないですがね（沢山あるので机の上がいっぱいになってしまっ）。

聞き手

これまで飾ることもなかったですかね。

作り手

誕生日とかに一回写真を撮る。全部並べて。

聞き手

誕生日とか、年越しとか。

作り手

人形のクオリティを高めていく動機って何ですか？

聞き手

動機はあの人です。元担任。人の気持ちを考えずに、あの人のお癖と言えど真先に上げるのが「我慢しなさい」。二番目に上げるのが、人が泣いていけば「女の武器を使ってんじゃねえ」と

言う様な先生でした。あといじめた男なんですけど、この人のプロフィールだけ覚えて最悪なパターンですけど、血液型はO型。6月23日生まれ。趣味はカラオケ。嫌いなものは犬。ゲームでいうとどうしても倒さなきゃいけないボスがいます。それを潰すために徹底的にレベル上げてる感じです。

作品題名	ふりがな りみと ティリア 創作 主人 リミと ティリア 主人公
作り手	ふりがな よ 耀 了カル 1993年生まれ
語り手	ふりがな とら たに たま 虎谷 多真 姉 姉市 作り手の関係

小さい頃からアニメやゲームが好きで女の子で、自然と自分のキャラクターを創作していった。妹は父と自分を較べがちで、パーフェクトな紙の切り貼りを平に頭の中イメージを立体化した様さ。妹が障害者として自覚し始めた頃、小学校でいじめや嫌いな受けて自分の存在に悩む事も多く、自分に関する事は何かをやることにした。中学の夏、学校の先生、妹の手を、妹の能力を見出した事で、機械に人形作りや手芸に着手するようになった。今では手芸作品を通じて人に認められたい、と言う気持ちが強くなり人形作りを仕事で自分に自信を付けられたいと思った。特に妹は高校時代の人間関係のトラブルで人間不信になり、苦悩を誰にも理解されず、孤独に苦しんだのが今でも心の傷として残っています。妹は、あの頃の自分の苦しさを光輝し、妹と繋がる為にも、妹のイメージを手芸作品に昇華する事で、自分自身を救ったのだと思ってる。



なぜ絵に余白があるのですか？

支援員

自信がなくて、小さく描いているという訳ではない気がします。猫の絵を大きく描いて欲しくて「なちゃん、大きく大きく」と声をかけたり、大きな画用紙を渡したこともあったんですけど、小さいままでしたね。余白の取り方というのは本本当に謎です。

聞き手

日常の中でも、物の並べ方にこだわりがありますか。

支援員

リモコンの位置や消毒液のブッシュの向きなんかは、決まった向きに直されますね。カレンダーも先月のままだと、めくらないと気が済まなかったり。一緒に中華屋さんに入ったときに、カレンダーをめくろうと厨房に入っ行ったこと(笑)

聞き手

そういうこだわりが、支援員の方に向くことはありますか？

支援員

それはないかな。ご本人自身は〇月になったら長袖を着ないといけないとありますが。

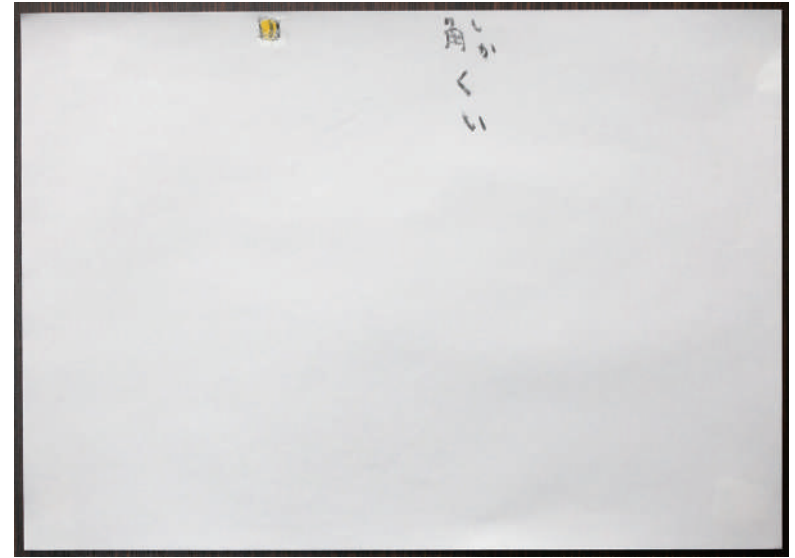
聞き手

やりたいことに関して、どういう風に意思表示をするんですか？

支援員

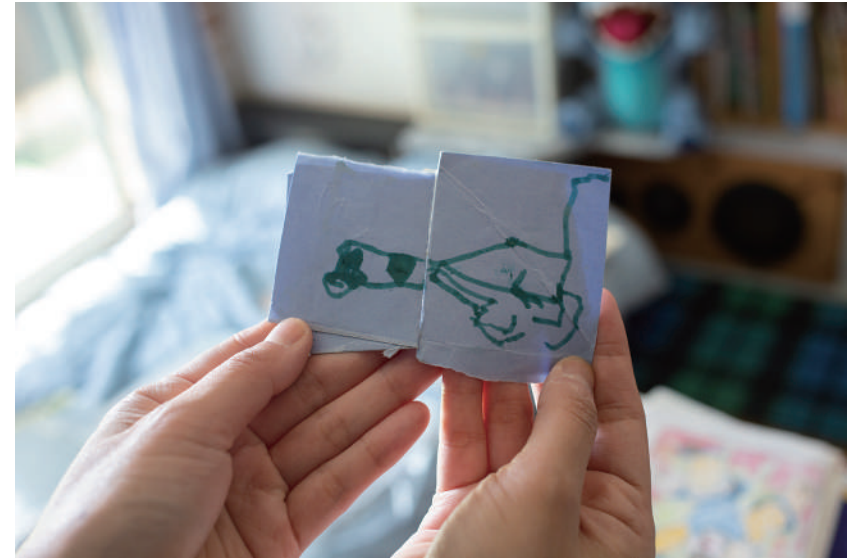
「〇〇します」と言われますね。

やりたいことははっきりと伝えるんですが「したくない」ことがなかなか言えないところがあります。そういう時は「はい」と言ってもやらなかったり。困った顔でじっとこちらを見たりされます。あんまりそういうシチュエーションにはならないように気をつけてますね。



作品題名	ふりがな かのじよ、にっか、へんか、くせ、つよ、われわれ、たからもの 彼女の「日課」と「変化」と「癖の強さ」。そして我々にとっての宝物。		
作り手	ふりがな さいす、なつこ 西須奈津子 1991年生まれ		所属 社会福祉法人 ロングラン
語り手	ふりがな いしづか、のりこ 石塚紀子	作り手との関係 支援員	

グループホーム(以下、GH)で生活する彼女は毎日就寝前のひと時に絵を描いている。はじめは大好きな「アンパンマン」。ある時、宿泊支援員が自分の絵をリクエストしたことから宿泊支援員の絵が加わった。どれも同じに見えるが本人にはわかるらしい(たぶん…以前聞いたら答えていた)。毎日4~5枚のA4のコピー用紙に描き、たまった絵をドサッとGHの支援員が私へ持ってくる。描く絵に執着のない彼女は、すぐゴミ箱に入れてしまうので「捨てるなら私へ」と伝えていた。それからは、「こんなに溜まりました〜!」とにこやかに私へ持ってきてくれる。絵を見ると他に違うシリーズが…。用紙の片隅に小さく描かれた四角、チーズ、ピスタチオなどなど。どんなに余白があろうと一枚一つ。ここ(余白)にも書いたら?と声をかけても「はい」と言うが描くことはない。この癖の強い書き方がなんとも彼女らしい。彼女がこれからどんな絵を描くのだろう、支援員との関わりも含めて変化が楽しみである。癖の強さは変わってほしくないが…。



絵本を作るきっかけを教えてください

母

4歳から絵を描きたいというよりは、本を作りたいと言いはじめました。最初はたぐやが絵を描けなかったので、お話を聞いて代わりに絵を描いたりシールを貼っていました。そこからだんだん自分でも描くようになって…。ちょうどそのころ、保育園に通い始めて、そのときに付いてくれた先生がとても良かったんです。絵本をお昼寝の時にみんなの前で読むという習慣を作ってくれて、そのときは、家で1日1冊絵本を作っていました。

聞き手

初めて絵本を読んでもらった時、どんな気持ちになりましたか？

作り手

保育園の先生が皆の前で僕の本を読んでくれて、「ステキ！」「すごいね！」などを言ってもらえてうれしかったです。それまでは自分に自信がなかったのですが、自分のことを認めてもらえた気がしました。

作品題名	いしにふりまじりかんづえに おかう ちいさな さか 1日8時間 机に向かう小さな作家		
作り手	ふりがな たくや 拓也		2010年生まれ
語り手	ふりがな ぶくえ 郁恵	作り手との関係	母親

5才の頃から作り続けた絵本やマンガが500冊以上あります。常に頭の中はお話や登場人物のこと一杯。すべてを紙に吐き出さないと彼自身落ちつかないようです。即興で作詞・作曲し歌うことも得意。YoutubeにUpした「持ち歌」が何曲もあります。毎日毎分、創作することに全てを注いでいます。日常のなかで気になることがあったり、スライダなど思うことがあると、そこからむくむくと想像力がふくらんでいきます。行ったりした時はそれを作品にもぶつけて、ちよとスツクリ。物語にすることで、自分の中の消化しきれない気持ちも、ソフトに共有できるので、支援者とのコミュニケーションにも役立っています。でも本人はやはり何より「芸術」や「美しいもの」や「スライダ」が好き。お話はほぼ「ハッピー-エンド」で終わりで、そのことを大切にしているようです。



取っておくの大変じゃないですか？

母

聞き手

母

聞き手

母


どこまでやるのかっていうのが気になるっていうか、面白がっちゃうので。でも、面白くないと思ったのは、捨てちゃってますよ。たまに、すこいのを描いちゃったっていうのあるから飽きることはないですね。これかっこよくないですか？いや、すこいですね。

私すこい道具を用意しちゃうんですよ。クレパスも切らしたことないですもん。今これが面白いらうな、したいんだらうなというのがわかるので。まあ、ないとテープは？クレパスは？と言われ続けるというのがあります。

マスクも収集したい気持ちがあるんですけどよね。

昔からのこだわりで。コロナ禍で新しい商品がどんどん出たじゃないですか。一度コンビニで「買いますー！」が止まらなくて結局全種類買って来たこともありました。いや、買い物は日々せめぎ合いですね。私の目を盗んで、色んな人にメッセージするんですよ「マスク原信29枚買いますー！」とか。

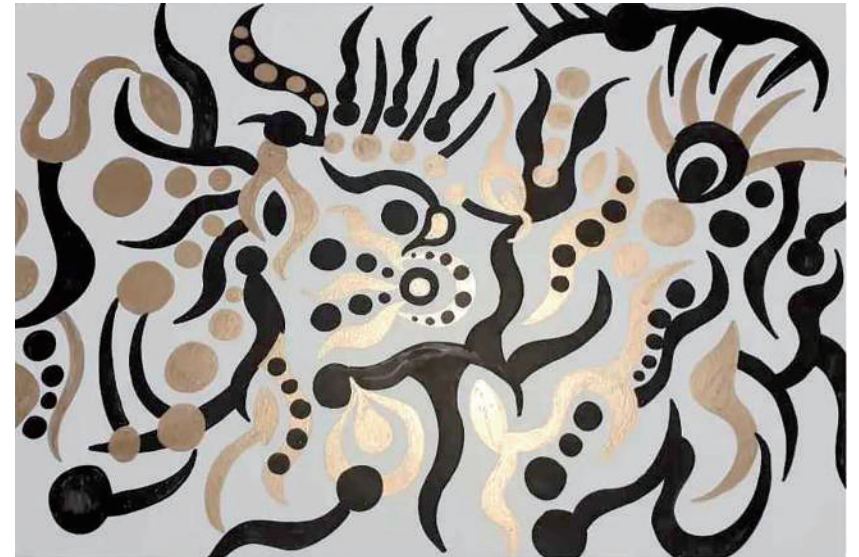
皆さん慣れたもので「はるとさんだねー」と返信くれます。楽しんでくれるみたいで、ありがたいです。

作品題名	ふりがな ぱけいーいあつめ (たべもの日記とまどま マスクやえのく) パッカーン集め (食べもの日記とまどま マスクやえのく)	
作り手	ふりがな ばばほと 馬場悠斗	2000年生まれ
語り手	ふりがな ばばとまき 馬場友奈	 作り手との関係

1年程前から、食卓後のお菓子の袋やアイスの棒を紙に貼り始め、そのうちお茶漬けやラーメン、肉片ゴ、シューマイ...。いろんなパッカーンを重ねてテープで貼っていくという作品です。

息子が台所からシューマイの袋を持って行こうとした時、「あー!!ちよと待て!!」と急いで洗って拭くと嬉しそうに貼ります。そんなやり取りは楽しい、どまどやる気も女子奇心にかかられます。

私は、アラクニって物いれと環境問題を考えたり、マスクの箱が汚く、いろんな種類が混ざるのは、コロナ禍ならではの悩み、なんて思ったりもします。また、重たなパッカーンを見て、「おは人のシューマイは必ずお茶漬けだよ」とか、毎日少しずつ食べているつりのおやつだけとたくさん食べてみよとか、あの時お兄ちゃんが沖縄みあげを送ってくれたね...。これってまさに息子の日記にしたい気分じゃないですか!!



この写真について教えてください

作り手

5年前?一緒に温泉旅行に行った時に浴衣が選べるサービスがあって、写真を撮ろうとなったんです。

聞き手

とても仲良さそうに見えますね。

作り手

母親同士仲が良かったんで、物心付いたころから一緒にいました。

従姉妹

今はなかなか会えませんが、よく電話やLINEしたり。

やり取りしています。

聞き手

え、令嬢言葉で。どういうきっかけですか。

従姉妹

突然始まってずっと続いているんですが。私たちまだ中二なので、ちょっとしたこと話して膨らましたりするのが好きで。

異世界に目覚めがち、というか。

作り手

トランプの大貧民をするときも革命が出たら、演説することがお決まりだったり。

従姉妹

そういうことをしても、えーって引かない関係っていうか... これまでいっぱい作品を作り上げてきたよね。

作り手

妄想で映画を何本も作っているしね。

作品題名	丸とクネクネ～タイトルと一言をそえて～	
作り手	佐藤 葉月	1984年生まれ
語り手	平山 麻衣	従姉妹(母方) 作り手の関係

独特な間とユーモアを持っているイトコがある日見せてくれた一枚の絵。それは丸とくねくねが集まっている不思議な模様でした。小さい頃から一緒に遊び過ごしてきたイトコの作品は、本人を表すように単純でもとても複雑だと思います。丸とクネクネを沢山描く ただそれを組み合わせていだけだよね!と本人は言うけれど、実際に描いてみると想像以上に難しい。丸かいてくねくね。丸かいてくねくね。塗りつぶしていく線の中、線の外。もはや一つの世界みたいです。単純な丸とクネクネの線で作られた世界は、言葉にするのが少し苦手なイトコの気持ちがたくさん込められています。題名に添えられたコメントと、いろいろな色で描かれている丸とくねくね。私はそれが大好きなのです。

作品の読みかた、それぞれの観点とは？



今回の公募展の作品選定は、美術・福祉・デザインなど複数の分野の専門家6名に依頼し、応募用紙を読む「読み手」として、展覧会で紹介するに相応しいと思う方を2名ずつ選んでいただきました。作品を楽しむガイドとして、8月に行われた選定会での読み手の発言から作品を選ぶにあたっての観点を紹介します。

古泉 智浩 (漫画家)

僕は普段漫画を描く仕事をしているのですが、最初は好きで始めたはずなのに面倒になったり場合によっては嫌になったりする日もあるから、本当に自分が好きで描いている絵に心打たれます。現物を見てみたいと強く思うものを選びました。

【土田 真央さん】 ベコちゃんの顔に女子高生みたいなボディーパーが付いていて、とんでもない発想だなと思った。一番推しです。仮面をかぶった女の子も一体何なんだろうと。横に書いてある言葉が歌詞なのか何なのか、それもすごく気になりました。

【耀 アカルさん】 現物を見ないと何とも言えないところもあるんですけど、作り続けているその過程も含めて見てみたいと思うんですね。女の子が本当に好きなんだろうなという気持ちがあふれ出ているところが良いですね。

本間 奈美 (相談支援センターせらうみ)

佐渡で相談支援専門員をしています。私たちの仕事って、どうしても障害者の方々の問題を解決しよになっちゃって、〇〇しなさいよ、というのになりがちなんですけど、アートの支援は見られてなかったことに脚光を当てられる、すごく明るい支援だと思います。

【小村 孝子さん】 「た」のかた。同じことを描きながら、きれいな色が出てきたりとか色調が違ったりとか、とても良かったです。60歳ということ歴史を感じるというか、「た」の枚数や、年代別に貼るとどんなふうになるのかなと思いました。

【土田 学さん】 もともと絵を描いてきたわけではなかったのに、展覧会を見たのをきっかけに、果敢に挑戦して自分なりにやってみたというのがすごいと思います。応募用紙の字もいいですね。直接彼のことは知らないですが、本人を感じられる気がします。

迫 一成 (hickory03travelers 代表 アートディレクター)

僕の福祉施設との関係では、これまで商品の開発やブランディングをお手伝いしてきました。選定にあたり事前に応募文を読んできましたが、一堂に見ると良いと思うものも変わってきますね。読み手の皆さんとの会話の中で今の時代らしいものが選べるのかなと思っています。

【松澤 龍成さん】 作品の力とストーリーと総合力が高いですね。好きなキャラを描いて立体化していく、その過程が伝わる感じが面白い。まだ13歳で、どんどん作っているそうなので、これからも見たいな。学校の先生の評価も高いようなので、さらに周りの方が応援してくれたらいいなあと思いました。

【馬場 悠斗さん】 観察者のお母さんがとてもいいなと思いました。貼っているものやLINEのやりとりも、残っている。普段我々が生活の中で消費しているものが使われているので一般の方にも分かりやすいし、共感性が高い。あきらかに面白いし実物を見たいという気持ちになりました。

【吉原 悠真さん】 タイトルが良い。「テキトーな絵」。「私はそれでも描き続けた。」という言葉が印象的でした。明らかに書き続けていますよね。落書きって書いたら、言い訳がましいと言うか可愛らしい。自分でも適当って言ってますが、そこまで変でもないですよ。惹かれました。

藤井 岳 (相談支援事業所もくれん)

相談支援専門員として精神障害のある方と関わることが多いです。前回の2019年開催時には、応募者として参加させてもらいました。今回は自分が選んだことにより、アート活動が盛んになったり、周りの人がその活動を応援するようになったらいいと思います。

【手塚 里美さん】 心に引っかかるものがありました。心臓とか、動脈とか静脈とか、なんでこれ描いたんだろうと気になりました。長いロール紙が会場に飾られたらいいなと、実際見てみたいと思いました。

【七桃団仔さん】 語りを読むと怒りが頂点に達して語っている場合ではないと。恨み辛みが書かれている、その裏には自分の作品を見てほしいのかなとも思いました。グッときたというか。悩んだんですけど僕じゃないと選べないのかなと思いました。実際にお会いして話を聞いてみたいです。

【拓也さん】 1日8時間も作品を作っているとあり、ほとんど机に向かってるとわかります。数え切れないほどの漫画を描いていって量があるので、展示するのは大変でしょうが、とても楽しくなるのではないかなと思いました。自作された「ストーカー」の歌詞、非常に気に入っています。

山下 里加 (京都芸術大学アートプロデュース学科教授、アートジャーナリスト)

障害がある人と現代アーティストの表現、博物館資料をごちゃ混ぜに展示する「ブリコラージュ・アート・ナウ 日常の冒険者たち」(主催:国立民族学博物館)の企画に関わりました。アール・ブリュットを美学の言葉として追求すると袋小路に入ってしまう感じがするのですが、今回の展覧会趣旨をうかがってパッと開かれた気持ちになりました。窓もドアも開かれた場に招かれるような展覧会になるような予感がしています。

【佐藤 葉月さん】 推薦者が従姉妹だっていうのが面白いですね。なんといってもこの応募写真ですよ。みんな似ていて、楽しそうということが伝わってくる。この従姉妹同士が独特の距離感と言うか、羨ましくするような関係性の中で、作品を見せ合って面白いねって言うことができるのがいいなと。アール・ブリュットの作家は孤独なイメージがありますが、これ選んだら従姉妹達とめっちゃくちゃ楽しそうに來られそうですね。その姿を展覧会で観たい。作品も奇妙で面白いと思いました。

【西須 奈津子さん】 余白たっぷりおでこさん。キャラが立っているというのと、ほとんど差がないように見えますが、差があることを読み取っている支援員さんが面白い。支援員さんのエピソードを読むと、昔はこうだったけども今はこうなっていますよ、とか、時間をかけて西須さんと関わっていることがわかりました。

前山 裕司 (新潟市美術館館長)

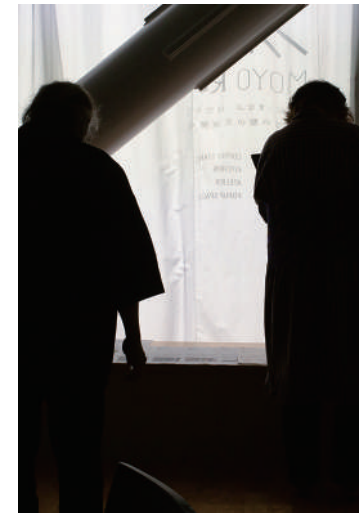
埼玉県の障害者アート公募展に長年関わってきましたが、埼玉はゴミみたいな作品が集まってくるんですね。いやこれは褒める意味で、そのような展覧会こそ懐が広いということです。選考会は美術の専門家と支援員の方と一緒にいるんですが、中には専門家が審美的に判断したのもも、支援員からの説明があると全然見方が変わってくることもあるんですね。この企画で、周りの人たちが彼らのやっていることを「これでいいんだから出そう」ということが広がっていくことを期待しています。

【大塚 智史さん】 「工房さとし」。工房的に一度に複数作っているというのが他にはないかなと思っています。作り続けて、同じものがたくさんできてきているのが面白い。

【小野塚 秋雄さん】 よく分かんないといえよく分かんないですけど。丸いものが生き物や葉っぱになっていたり、丸が何にでも変化していくような絵ですね。全体の形と色合いも愛らしく、ちょっと好みます。73才でちょっと可愛らしく感じます。

【HIさん】 ものとして魅力的だと思います。それと同時に、天国にいるお父さんに語りかけているというのは、ここにはいない人たちとも繋がっていけるということで推薦しました。支援員さんとのコラボっぽいところがあるのかな。

応募者全員に対して言えることですが、作品の制作過程で、支援員さんの手が入ることを嫌う人が一部にいますが、私はそこにこだわらなくて良いと思っています。アーティストは自分一人きりで作品を作っているなんて大間違いで、アンディ・ウォーホルがキャンベルスープの作品を作ったのも、画廊の人に自分の好きなものを描いたらいいと言われたことがきっかけだったりしますからね。



令和4年度新潟県障害者芸術文化活動普及支援事業
新潟アール・ブリュット公募展「ものと語り」

会期:2023年3月4日(土)~12日(日)※8日は休館
会場:ミュゼ雪小町(上越市本町5丁目4-5)

作品募集期間:2022年7月1日~8月10日
入選作品 作品の読み手による選定委員会:2022年8月31日

[出品者]【作り手+語り手】(五十音順)

H I + 工藤 由貴子、大塚 智史+岩崎 亜矢子、小野塚 秋雄+本間 洋子、小村 孝子+濁川 将司、西須 奈津子+石塚 紀子、
佐藤 葉月+平山 麻衣、拓也+郁恵、七桃団仔、土田 真央+早川 小雪、土田 学+佐藤 汐織、手塚 里美+佐藤 貴彦、
馬場 悠斗+馬場 友絵、松澤 龍成+金澤 薫、耀 アカル+虎谷 多真、吉原 悠真

[選者]【読み手】(五十音順)

古泉 智浩(漫画家)
迫 一成(hickory03travelers代表 アートディレクター)
藤井 岳(相談支援事業所もくれん)
本間 奈美(相談支援センターそらうみ)
前山 裕司(新潟市美術館館長)
山下 理加(京都芸術大学アートプロデュース学科教授、アートジャーナリスト)

[主催]新潟県(新潟県障害者芸術文化活動支援センター)

[共催]上越市

[企画]新潟県アール・ブリュット・サポート・センターNASC

[総合演出]角地 智史

[空間演出]小出 真吾(IDEKO)

[協力]

特定非営利活動法人アビリティィ 燕 トムの家/糸魚川市立ひすいの里総合学校
独立行政法人国立病院機構 さいがた医療センター/特定非営利活動法人障がい者生活ステーション さんろーど
社会福祉法人中越福祉会 みのわの里更生園/社会福祉法人とよさか福祉会 クローバー 歩みの家
社会福祉法人まき福祉会 地域活動支援センター ビース/合同会社マザーアース マザーアース新発田
社会福祉法人南魚沼福祉会 まきはたの里 まかろに/社会福祉法人ロングラン

[表紙作品写真]

上:拓也

下:手塚 里美

左(一部分):小野塚 秋雄



「ものと語り」展覧会写真

2023年3月発行

企画:社会福祉法人みんなのできる法人本部
新潟アール・ブリュット・サポート・センター NASC

作品調査・編集:角地 智史、渡辺 智穂、井上 有紀
特定非営利活動法人アートキャンプ新潟

デザイン:富樫 真美・瀧澤 奈津美(特定非営利活動法人アートキャンプ新潟)

写真:角地 智史 他

発行:社会福祉法人みんなのできる
〒943-0834新潟県上越市西城町2-10-25-307
TEL:025-530-7264 FAX:025-530-7261
MAIL:info@niigata-artbrut.net
HP:http://niigata-artbrut.net/